

# アカウミガメ回遊経路 送信機で追跡へ

名古屋港水族館と研究者ら

名古屋港水族館（名古屋市港区）は、アカウミガメの回遊経路を解明するため、海外の研究者らと共同調査をする。第1弾として、送信機を取りつけた子ガメ25匹を7月中旬に北太平洋沖で放流する。

今月20日からの3日間、同水族館で米国やニューシールランド、メキシコなどの研究者ら約10人が集まり、アカウミガメの甲羅に送信機を取り付けた。

## 来月、北太平洋で放流

日本の海岸で生まれたアカウミガメは、海流に乗って米国のハワイ近海へ。さらに、カリフォルニア半島沖へたどり着くと考えられている。だが、回遊の詳しい経路は長年、謎に包まれてきた。

今回の調査では、向こう5年間にわたって計100匹を放流し、調査する。位置情報をリアルタイムで追跡しながら、海水温などの海洋環境のデータも集める。水族館のホームページで位置情報などを公開する予定。（松永佳伸）



6/29(木) 朝日